

りゅうがくせい にほんじんがくせい にほんご
留学生と日本人学生の やさしい日本語

ぼうさいはんどぶっく
防災ハンドブック



わかやまだいがく
和歌山大学

がいこく こ しえんぶろじえくと
外国につながる子どもへの支援プロジェクト



国立大学法人
和歌山大学

はじめに

日本は災害がとても多いです。

和歌山では、毎年大雨や台風が起きて被害が出ています。

また、これから大きな地震が来るかもしれません。

このハンドブックを読んでおいてください。



①日ごろから近所の避難所（逃げるところ）と逃げ道を

確認しておいてください

②慌てないで、落ち着いて逃げてください

③近くのひと協力して行動してください

④大きな災害にあった後は、家族と大学へ連絡してください

ひ
日ごろの
そな
備え

ひなんじよ に せいかつ
避難所（逃げる ところ）での 生活や、

ていでん でんき と
停電（電気が 止まること）や

だんすい みず と そな
断水（水が 止まること）に 備えて、

ようい
用意して ください



ひつよう りすと
必要なもののリスト

た もの
1: 食べ物 みず すぐ食べられるもの

たいせつ みぶんしょうめいしょ ほけんしょう ざいりゅうかーど
2: 大切なもの 身分証明書（保険証、在留カード）

くすり ぎんこうつうちょう いんかん かね
薬 銀行通帳 印鑑 お金

みつ かぶん みず た もの
3日分の水と食べ物



き
3: 着るもの くつ くつした したぎ うわぎ
靴 靴下 下着 上着

にちようひん かいちゅうでんとう けいたいでんわ じゅうでんき かんでんち
4: 日用品 懐中電灯 携帯電話 充電器 乾電池

ますく ぐんて たおる びにーるぶくろ
マスク 軍手 タオル ビニール袋

ていっしゅ ぺん めも せいりようひん
ティッシュ ペン メモ 生理用品

じしん 地震



地震

そと 外での きけん 危険なもの

①



へい 塀

②



じ どうはんばいき 自動販売機

③



た さ 垂れ下がった でんせん 電線

じしん おおきた とき
地震が起きた時

■^{たお}倒れてくるものや、^{うえ}上から^お落ちてくるものに^き気をつけてください

■^てテーブルや^{つくえ}机の^{した}下に入^{はい}って、^{あたま}頭と^{からだ}体を守^{まも}ってください

■^ゆ揺れが止^とまったら、^{ドア}ドアを^あ開けてください

■^ひ火や^{がす}ガスを^け消してください

に とき
逃げる時

■^{たいせつ}大切な^{もの}物だけを^も持って、^{ある}歩いて^に逃げてください

■^えエレベーターは^{つか}使^{つか}わないで、^{かいだん}階段を^{つか}使ってください

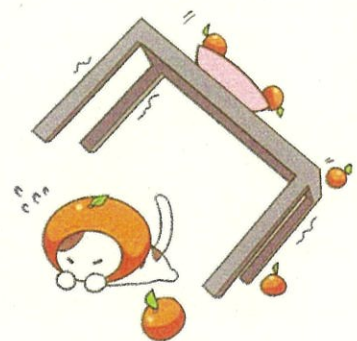
■^{おお}大きい^{じしん}地震の^{あと}後は、^{つなみ}津波（^{たか}とても^{なみ}高い^く波）が^く来るかも^しれ^ません

■^{うみ}すぐに^{かわ}海や^{はな}川から^{たか}離^{ところ}れて、^に高い^{ところ}所に^に逃^にげてください

おお じしん あと
大きい地震の後は

よしん おお じしん あと お じしん
余震（大きい地震の後に起こる地震）が

く
来るかも しれ^ません





たいふう ちか き とき
台風が 近づいて 来た 時

■ ニュース・インターネットを 見て ください

■ ガラスの 破片が 飛ばない ように、カーテンを 閉めて、

窓に テープを 貼って ください

■ 強い 風で 飛ばされそうな ものを、家の 中に 片付けて ください

■ 危険な 時は、早めに 避難所 (逃げるところ) に 逃げて ください

あめ ふ
雨が たくさん 降ると、

① やま がけ くず
山や 崖が、崩れる ことがあります



② かわ みず ふ あふ
川の 水が 増えて、溢れる ことがあります



ひ じぶん
日ごろから、自分の まわりの

危険な 場所を、調べて おいて ください

いえ なか みず はい
家の 中に 水が 入って きたら、

たか に
高い ところに 逃げて ください





かじ お とき
火事が起きた時

■「火事だ!」とおおきな 声で 言って、

ちか ひと おし
近くの 人に 教えます

■火災報知機の ボタンを お 押して ください

■119に でんわ を します

■消火器を つか 使って、火を け 消して ください

かさいほうちき
火災報知機



かじ み
火事を見つけたら

ほたん お
ボタンを押します

119番のかけかた

★火事の時、消防署へ電話します



①「(〇〇：場所)で火事です」

②「〇〇が燃えています」

③「私(わたし)の名前は〇〇です」

④「電話番号(でんわばんごう)は〇〇です」

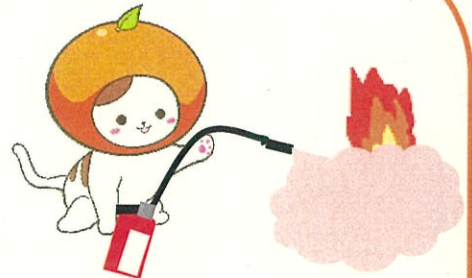
★多言語通訳のサービスも あります

★けがをした 人(ひと)を、救急車(きゅうきゅうしゃ)で 病院(びょういん)に



連れて 行く(い) 時(とき)も、119番(ばん)に 電話(でんわ) します

しょうかき つかかた 消火器の使い方



- ① ^{びん} ^ぬ
ピンを 抜く
- ② ^ほ ^す ^{さき} ^ひ ^{した} ^む
ホースの 先を 火の 下に 向ける
- ③ ^れ ^ば ^ら ^{つよ} ^{にぎ}
レバーを 強く 握る

しょうかき ひ ちい とき つか
※消火器は 火が小さい時だけ 使います

ひ つよ
火が 強すぎるとき

てんじょう ひ
天 井に 火が ついて いるとき

そと に
すぐ 外に 逃げて ください

けむり に とき 煙から 逃げる 時



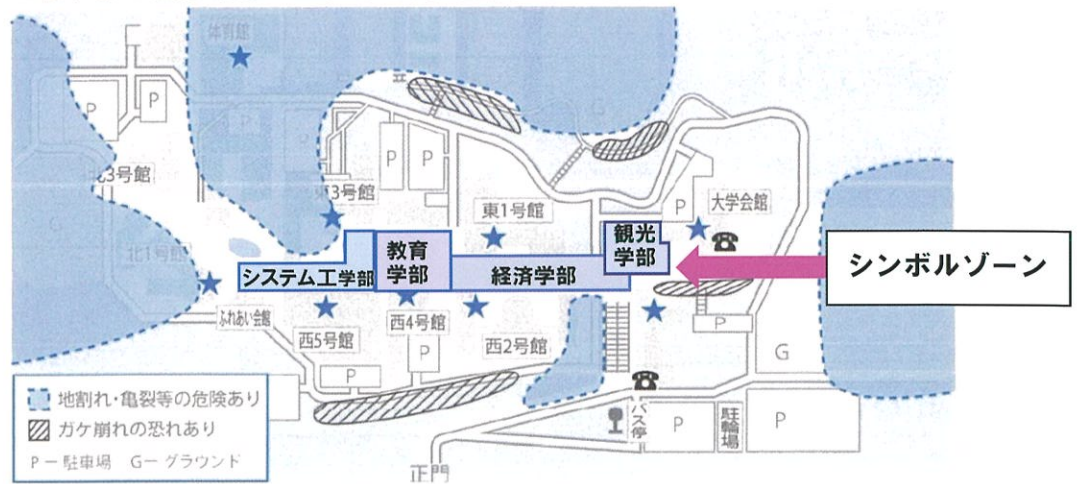
しせい ひく
■姿勢を 低くしてください

ぬ むの た おる はんかち くち はな おお
■濡れた 布 (タオル・ハンカチ) で 口や 鼻を 覆ってください

えれべーたー つか かいだん つか
■エレベーターは 使わないで、階段を 使ってください

ちず
地図

■各学部の避難場所・AED(★)・公衆電話(☎)の場所



大学に いる 時の 一時避難場所 (まず 逃げる ところ) は、シンボルゾーンです

家に いる 時の 避難所 (逃げる ところ) と 逃げ道も 調べて おいて ください

じょうほう
情報の

あつ
集めかた

きしやうちょう ほーむぺーじ たげんご
■気象庁のホームページ(多言語)



たげんご じょうほう
多言語での 情報があります

<https://www.jma.go.jp/jma/kokusai/multi.html>

いっばんざいだんほうじん じちたいこくさいか きやうかい くれあ ほーむぺーじ
■一般財団法人 自治体国際化協会(クレア)のホームページ

たげんご せいかつじょうほう たげんご きんきゆう さいがいじょうほう
多言語生活情報(多言語での 緊急・災害情報があります)

<http://www.clair.or.jp/tagengo/>



ほうさい
■あがら防災

わかやまだいがく ほうさいかんれん ぶろじえくと さくせい ほーむぺーじ
(和歌山大学の 防災関連プロジェクトで 作成した ホームページ)

わかやまけんない ひなんぼしよ じょうほう
「和歌山県内の 避難場所」などの 情報があります

<http://agara-bousai.jp/>



おお さいがい お でんわ つな
大きな 災害が 起こると、電話が 繋がりにくいです。

さいがいようでんごんばん さいがいようでんごん だ い や る つか
災害用伝言板 (web171) や 災害用伝言ダイヤル (171) を 使うと

さいがい ひと めっせーじ のこ
災害に あった人が メッセージを 残して、

かぞく ともだち めっせーじ き
家族や 友達が そのメッセージを 聞くことができます。

ひがしにほん にしにほん さーびす
(NTT東日本・西日本のサービスです)

さいがいようでんごんばん いんたーねっと
■災害用伝言板 (web171) 【インターネット】

にほんご えいご かんこくご ちゅうごくご
※日本語・英語・韓国語・中国語

ぶんしょう めっせーじ のこ
文章で メッセージを 残します

<https://www.web171.jp/web171app/topRedirect/>



さいがいようでんごん だ い や る つか かた でんわ
■災害用伝言ダイヤル (171) の 使い方 【電話】

じぶん めっせーじ のこ 自分が メッセージを 残す	めっせーじ き メッセージを 聞く
① 「171」に <small>でんわ</small> 電話する	① 「171」に <small>でんわ</small> 電話する
② 「1」を <small>お</small> 押す	② 「2」を <small>お</small> 押す
③ じぶん でんわばんごう お 自分の 電話番号を 押す	③ あいて でんわばんごう お 相手の 電話番号を 押す
×××-××××-××××	×××-××××-××××
④ <small>お</small> 「1#」を押す(メッセージを <small>のこ</small> 残す)	④ <small>お</small> 「1#」を押す(メッセージを <small>き</small> 聞く)
⑤ <small>お</small> 「9#」を <small>お</small> 押して 終わる	

留学生と日本人学生のやさしい日本語防災ハンドブック

■企画・執筆・編集・発行

和歌山大学 外国につながる子どもへの支援プロジェクト

長友文子 和歌山大学国際連携部門 教授

松下恵子 和歌山大学国際連携部門 特任助教

野村美雪 和歌山大学紀伊半島価値共創基幹 研究支援員

宮田果奈 和歌山大学観光学部 2回生

池内響弥 和歌山大学教育学部 2回生

姜楽宇 和歌山大学教育学部 研究生

Natasya Wanda Aryand 和歌山大学日本語・日本文化研修留学生

■わだにゃんイラスト担当

Natasya Wanda Aryand 和歌山大学日本語・日本文化研修留学生

■協力

宮定章 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター 特任准教授

南出考 和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センター 価値共創研究員

■発行日

2021年2月1日

■印刷製本

麦の郷印刷

外国につながる子どもへの支援プロジェクトは、和歌山大学紀伊半島価値共創基幹（Kii-Plus）の社会実装教育研究プロジェクトの一環であり、令和2年度地域活性化推進研究プロジェクトにも採択されています。

このハンドブックは、令和2年度地域活性化推進研究プロジェクトの成果物として発行するものです。

